

2010年10月29日

ヒートポンプ問題連絡会 御中

三洋電機株式会社

執行役員
三洋電機株式会社
コンプレックス
事業推進統括部長
兼空調事業部長
安藤 謙一

ヒートポンプ性能表示について回答結果の送付と再質問について

謹啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。弊社社長宛に送付されました表題のご質問につきまして、下記の通りご回答をいたします。

謹白

1. この回答にある「各社」に貴社も含まれていますか。

【回答】

弊社では、インバータエアコンの能力を正確に測定するための測定モードを有しています。その際、JIS 運転条件設定においてエアコンの風量に関する試験条件を拡大解釈し、市場では再現しにくい条件設定を過去に行っていたことがあります。

2. 貴社が「ある条件になると風量を操作して性能試験を行っていた」のはいつからいつまでですか。

【回答】

2008年までの弊社製造製品の一部において、JIS のエアコンの風量に関する試験条件を、エアコンの有する風量設定範囲内で設定して、実使用とは必ずしも一致しない運転条件となる製品がありました。

3. (1) 貴社が「ある条件になると風量を操作して性能試験を行っていた」製品は、貴社のすべての製品ですか。

(2) すべての製品ではない場合に、「ある条件になると風量を操作して性能試験を行っていた」すべての製品の機種名、型番を明らかにしてください。

(3) 前期(1)または(2)の各製品について、「ある条件になると風量を操作して性能試験を行っていた」結果、省エネ性能はそれぞれどのように表示されていましたか。また、実使用時の消費効率がどの程度であったかお示ください。

(4) 「風量の操作」とありますが、①捜査された結果、出現するエアコンの室内運転音の最大音量(デシベル)、②カタログ等に表示されている室内運転音の最大音量(デシベル)を、製品ごとにお教え下さい。

【回答】(1)(2)(3)(4)

弊社の測定モードはエアコンのインバーター定格運転周波数および風量調整を行うものですが、設定する風量は機器の有する最大風量の範囲内で機器毎に任意に設定しています。これは JIS で記載されているグリル、ダンパーの位置、ファン速度は製造業者が指定する場合を除き能力が最大になる位置に調整し、それを設定条件と解釈したのですが、お客様のご使用状態とは必ずしも一致しない場合があります。

この測定モードにおける風量設定は100%定格性能には影響しますが、実使用を想定した効率評価に利用されるJIS通年エネルギー消費効率(APF)に対しては、1~2%の増加で軽微な影響であり、性能検定への影響は非常に小さいものと判断しております。

4. (1) 貴社が「ある条件になると風量を操作して性能試験を行っていた」製品の生産台数をお教え下さい。
- (2) 貴社が「ある条件になると風量を操作して性能試験を行っていた」製品は現在も販売されていますか。
- (3) 貴社が「ある条件になると風量を操作して性能試験を行っていた」製品について、製品の生産・出荷を中止したのはいつごろですか。また、貴社が過去に販売店等から「ある条件になると風量を操作して性能試験を行っていた」製品を販売中止のため回収したことがある場合、回収した時期と台数をお教えください。

【回答】(1)(2)(3)

2009年以降、測定モードにおいて、ご指摘をいただいているような風量設定を行っている製品は製造しておりません。それまでは各社との市場競争において JIS の解釈範囲内で通年エネルギー消費効率(APF)の向上を行ってまいりましたが、2008年に日本冷凍空調工業会より指摘があり改善しています。

5. 「ある条件」とはどのような条件ですか。

エアコン本体やリモコンに対して外部からの操作が必要な場合にはその具体的な操作方法を、エアコン本体が周辺環境を自動検地して起動する場合にはその具体的な環境条件をお教え下さい。

それらは、取扱説明書や操作マニュアルに記述されていますか。

【回答】

弊社エアコンの測定モードは、エアコンの JIS 条件での計測中に運転状態を一定に保つためのものであり、取扱説明書等には一切記載しておりません。

また、この測定モード中は、運転周波数と風量が一定に保たれ、空調機としての室温制御機能を損ないますので、設定方法につきましては公表できません。

以上